

### 火葬料金 27年ぶりに値上げ

#### 負担緩和のため段階的に改定

##### 5千円から1万2千円へ

**問** 葬祭事業について、火葬料金を現在の市民5千円から段階的に値上げする理由と、料金設定の根拠、今後の改定予定を聞く。

**答** 本市は昭和61年以降、火葬料金の改定を行っておらず、このたびの火葬場全面改装に合わせ、見直すものがある。



全面改装を終えた新火葬場

二段階の改定とした理由は、改定を行う際には急激な値上げは避ける必要があるため、平成25年4月から8千円とし、最終的には隣接する神戸市と同額の1万2千円にするものである。

けてほしいとの意見も踏まえ、利用者の負担感を少しでも緩和するためである。

料金の決定については、県下各市の料金を比較し、運営に係る経費等を検討した上で、平成25年4月から8千円とし、最終的には隣接する神戸市と同額の1万2千円にするものである。

今後の料金改定については、火葬場の利用状況などを踏まえ、検討していく必要があると考える。

### 待機者ゼロを目指す グループホームの拡充

#### 全中学校区に整備

**問** 少子高齢化が進む中、より一層の認知症高齢者施策の充実が期待される。待機者ゼロを目指すために今後、グループホームの拡充が必要と考えるが、市の見解を聞く。

**答** 認知症の人を対象としたグループホームの整備は、地域密着型サービスとして、まずは全ての中学校区に整備することを目標としており、未整備校区の野々池や江井島地区を優

先的に合計36床を整備する計画だ。平成24年度は野々池地区で25年度開設分として事業者の公募を行い、18床を整備する準備が進んでいる。さらに、25年度には江井島地区で残り18床の公募を行う予定だ。27年度以降は、サービスの必要量を見込んだ上で適切な整備を行っていききたい。

### 明石をスポーツ都市に 施設整備のために 基金を積み立て

**問** 本市はスポーツとの関わりが大きく、歴史と伝統はあるが、スポーツ施設が少ない。スポーツ都市宣言をして、施設の充実を図ってはどうか。

**答** 本市ではスポーツ振興施策を総合的に進めるため、平成23年に明石市スポーツ振興計画を策定した。計画では、スポーツに取り組みの機会を提供や人材育成などを基本施策としており、市民が心身ともに健康で、生きがいを持ち、人と人との交



夢はメダリスト

流を深めることができ、活力あるまちづくりを進めている。市としてもスポーツ施設が十分でないことは認識しており、新たに施設を整備するため、24年度に明石市スポーツ振興基金を創設した。今後さらに基金を積み立てる必要があるが、財政健全化の状況も踏まえ、た上でスポーツ振興を進めていく。

りー構造で安否確認や生活相談などのサービスが付いた68戸の住宅を供給している。また、民間の高齢者住宅の整備状況は、建築中の住宅を含め市内で9件、252戸の住宅が登録されている。さらに高齢者向けの住宅改修支援については、要介護

### 人体への影響が心配

#### 大気汚染物質PM2.5

##### 市内3カ所で常時測定

**問** 中国からと思われる微小粒子状物質PM2.5による大気汚染の現状と人体への影響はどうか。

**答** PM2.5は、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、その粒径が



二見市民センターにある測定器

がおおむね2.5μm以下のものを言い、人体に吸い込まれると健康への被害が懸念され、法律で環境基準が定められている。本市では平成21年度から市内3カ所の測定局で常時監視をしており、25年1月に環境基準を超過した日数は各測定局それぞれ1日で、近隣自治体と同様の状況である。人体への影響については、兵庫県などは環境基準を超えても直ちに健康被害

が出る状況ではなく、過剰な反応をしないよう呼びかけている。対策については今後実施する成分分析の結果など、全国状況をもとに国が検討する予定だ。

### 妊婦健康診査の助成

#### 現行は14回で上限7万円

##### 大幅な拡充は困難

**問** 新年度から妊婦健康診査に対して国による公費助成が恒久的な仕組みとなるが、今後の本市の助成額拡充について聞く。

**答** 本市では、平成18年度から妊婦健康診査の助成を開始し、21年度から現行の合計14回で、上限7万円の助成を実施している。一般的に健診費用は自由診療のため、さまざまな条件により5万円から10



マタニティマーク ちょっとした心配りを

分でないことは認識しており、新たに施設を整備するため、24年度に明石市スポーツ振興基金を創設した。今後さらに基金を積み立てる必要があるが、財政健全化の状況も踏まえ、た上でスポーツ振興を進めていく。

市民の期待に応えるため、建設が予定されている明石駅前再開発ビル内など、市東部にも同様の施設を開設できないか。

**答** あおぞら園とくららには、設立当初には在宅での待機者があり、療育を受けられないことがあったが、現在は施設

### 知的障害児の療育事業

#### 市民の期待に応え

##### 市東部での展開も検討

**問** 平成21年に知的障害児の通園療育施設として明石市立あおぞら園と児童デイサービスくらきらが開設されたが、多くのニーズがあり、待機者がいると聞く。

平成21年に知的障害児の通園療育施設として明石市立あおぞら園と児童デイサービスくらきらが開設されたが、多くのニーズがあり、待機者がいると聞く。

設定員の弾力的運用や療育教室等の自主事業の実施などにより解消している。今後も発達障害など障害の早期発見、早期療育への関心



平成21年 ふれあいプラザ明石西内に開設

が高まる中で、利用ニーズの拡大も見込まれるため、市東部での事業展開を含め、療育事業の拡大を積極的に検討していきたい。